

## 第4学年〇組 道徳学習指導案

- 1 主題名 共に生きる 中学年2-(2)思いやり, 親切  
資料名 「ぼくらの街のパン屋さん」 (自作)

### 2 主題設定の理由

- 本主題は、「相手のことを思いやり, 親切にする」ことを主な内容としている。本時は「障がいをもっている人への思いやりや親切にする態度を育てること」をねらいとしている。  
現在, 知的障がい者の多くが特別支援学校へ通学しており, 特別支援学校卒業後は, 授産施設や作業所あるいは更正施設でくらしているという状況である。したがって, 子どもたちの日々の暮らしの中では, 限られた出会いしか経験がない。その限られた出会いの中から知的障がい者に対する見方ができてきているものと思われる。このような子どもたちに知的障がい者の置かれている現状と彼らを取り巻く人たちの思いや願いを伝えることによって, 障がい者への自然な接し方について考えさせ, 「いろんな人がいていいんだ。」という価値観と「共に生きていこう」とする心情を養っていくことは, 大変意義深いと考える。
- 本学級の児童は総合的な学習の時間「誰にも住みよい町, 〇〇」でアイマスクや車いすの体験をするなど身体障がい者の人に対しては理解しつつある。一方, 地域の中にも知的な障がいをもっている人がいることについてはあまり知らないようである。  
そこで, 地域の中にも障がいをもっている人がいて一生懸命に仕事をしている姿を知らせることは, 健常者も障がいをもっている人も「共に生きていく」という道徳的心情を高めるのに意義深いと考える。
- 本資料は人権読本「ぬくもり」を参考に地域の知的障がい者通所授産施設「〇〇〇〇〇」で働く障がい者の姿と思いを描いた自作教材である。  
本時指導にあたっては, 「ひまわり園」で働く人々の姿を通して, 障がいのある人に対する思いやり・親切という価値に迫っていきたい。導入段階では, ひまわり園で作られたパンを見せ, パンへの関心を高める。その後, パン作りの作業をしているところの写真を提示し, どのような人が作っているのだろうと想像させる。展開前段では, 資料を読み, 知的障がいをもつ人たちがパンを作っていることを知らせ, パン作りの大変さや喜びからひまわり園の人たちの思いに共感させる。展開後段では, 障がいのある人に対する今までの自分の見方を振り返り, 価値を内面的に自覚できるようにする。終末では, ひまわり園でパン作りの指導をしていらっしゃる方からパン作りの様子や知的障がい者の人たちのことを聞き, 自分たちも障がいをもっている人も, 「地域で共に生きていこう, 自然に接していこう」という心情を育て今後の生活での価値に対する意識の継続を図る。

### 3 本時のねらい

健常者も障がいをもっている人も地域で共に生きていこう, 思いやりの心を持ち自然につき合っていこうとする心情を育てる。

- 4 本時 平成20年11月19日(水) 第5校時 第4学年〇組教室に於いて

### 5 地域との関連(地域のひと・もの・ことの活用)

自作地域題材: ぼくらの街のパン屋さん

地域人材: 知的障がい者授産施設「〇〇〇〇〇」職員

- 6 準備 資料「ぼくらの街のパン屋さん」, 〇〇〇〇〇で働く人の写真, ひまわり園で作ったパン, 道徳ノート









